

▼アリクストラ皮下注 [注]

【重要度】★★【透析患者に投与禁忌】 【一般製剤名】フォンダパリクスナトリウム (U) fondaparinux sodium) 【分類】合成 Xa 阻害剤

【単位】▼1.25mg・▼2.5mg/syr

【常用量】■静脈血栓塞栓症の発症抑制：2.5mg1 日1 回皮下 [低体重例には要注意]

■急性肺血栓塞栓症および急性深部静脈血栓塞栓症の治療：体重 50kg 未満は 5mg, 体重 50~100kg は 7.5mg, 体重 100kg 超は 10mg を 1 日 1 回皮下注

【用法】皮下注 (筋注不可)

【透析患者への投与方法】血中濃度が増大して出血の危険性が増大するおそれがあるので禁忌 (1)

【その他の報告】腎機能正常者よりも中止後の効果の持続が長くなる (U) データはないが, 出血リスクから投与を避ける (17)

透析強度との PK-PD 解析 (Eur J Clin Pharmacol 2022 PMID: 34414464)

【PD】データはないが, 出血リスクから投与を避ける (17)

【CRRT】データはないが, 出血リスクから投与を避ける (17)

【保存期 CKD 患者への投与方法】静脈血栓塞栓症の発症抑制：Ccr 30~50mL/min : 2.5mg を 1 日 1 回 [出血リスクが高い場合には 1.5mg], Ccr 20~30mL/min : 1.5mg を 1 日 1 回, Ccr 20mL/min 未満は禁忌 (1) 急性深部静脈血栓塞栓症の治療において, 体重 100kg 超で Ccr 30~49mL/min : 1 日 1 回 7.5mg に減量 (5)

【その他の報告】腎機能低下患者では消失が遅延して, 大出血のリスクが増大するため慎重投与 (U) 中等度~高度腎障害患者では消失が 25~55%遅延し, 腎機能正常者よりも中止後の効果が持続する (U)

GFR>50mL/min : 2.5~10mg/日, GFR 30~50mL/min : 1.5mg/日, GFR 30mL/min 未満 : 出血リスクから禁忌 (17)

腎機能障害患者に対して経験的に減量することでは出血リスクを回避できないと思われ, 抗 Xa 活性で評価すべきかも知れない (Cope J, et al: Ann Pharmacother 49: 270-7, 2015)

腎障害を有する血栓症ハイリスク例に 1.5mg/日 (Hester W, et al: Thromb Res 133: 629-33, 2014)

【特徴】AT-III を介して Xa 因子を選択的に阻害する. 未分画ヘパリンに比べて作用に個人差が少ない.

【主な副作用・毒性】出血, ショック, アナフィラキシー, 肝機能障害, ラテックス過敏 (注射針カバーに含有), 頭痛, めまい, 消化器症状など

【F】100% [sc] (1,U)

【tmax】1~2hr [sc] (1) 2hr [sc] (U)

【代謝】資料なし (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率 76~80% [120hr まで] (1) 77% [iv, sc, 72hr まで] (U)

【CL】全身 CL は体重の影響を受ける (1) 5.6~7.0mL/min (1)

【t1/2】Ccr>90mL/min : 13.1±3.6hr, Ccr 61~90mL/min : 17.9±0.94hr, Ccr 31~60mL/min : 28.7±7.5hr, Ccr 10~30mL/min : 71.5±11.7hr (1) 17~21hr (U)

【蛋白結合率】97~98.6% [主に AT-III と結合] (1) 94% (U)

【Vd】7~11L/man でほとんど血中に分布 (U) 7~10L/man (1)

【MW】1728.08

【透析性】HD により全身クリアランスは 20%増大する (U)

【効果持続時間】腎機能正常時 : 中止後 2~4 日 (U)

【備考】手術後 24 時間を経過し手術創等からの出血がないことを確認してから投与 (1) 体重 40kg 未満の患者は慎重投与 (1) 75 歳以上の高齢者では 30%, 体重 50kg 未満の患者では 25%消失が遅延する (U) 特異的拮抗剤はなく, 過量時の処置は保存的に行うしかない (U) シリンジにエアを混入させない (U)

【更新日】20221228

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。